

まっ、で KO SO!

過去の記事は
こちら

未知への探究 周囲の支えで

天文学者として生きる

「自分は何のために存在しているのか」。誰しも一度は思い悩む問いだ。私も例に漏れず、自分の存在意義を探していた。中学2年生のころである。ふと立ち寄った本屋で手にした「宇宙」の本が、そんな私の人生を大きく変えた。

その本によると、宇宙が始まったころ、「ビッグバンで合成された元素は、大量の水素と少量のヘリウム、微量のリチウムの三つだけだった」という。その後、水素ガスを元にして星が作られ、その中の核融合反応で、あるいは消滅時の大爆発を通して、私たちの体を構成する

基本的な元素が形成されたというのだ。

その一節を読んだときの感動は今でも覚えている。あれほど広大で、時間の流れも全く異なる宇宙と、ちっぽけな自分の存在が、何処かでつながっている。目に見えなくても、全てに原因と結果があり、それが今の宇宙を形作っている。「このつながりの一端でも解明できたら、どんなに素晴らしいことだろう」。そう思って、この天文学者の道を志した。

研究者は職業として不安定だからと、多くの人に反対されながらも、名古屋大学大学院の門をたたいた。両親だけが、自分の好きなことをやりなさいと、背中を押してくれた。それから

は自分の人生の全ての時間を、研究に注ぎ込んだ。

誰も見たことのない世界を探究する活動は刺激的で、寝る間も惜しんで研究に没頭した。名古屋大学が南米チリの標高4800mに設置した「NANTEN2電波望遠鏡」を大学から遠隔で操作し、ときには現地に滞在して、人類未踏の南半球の空を観測し続けた。

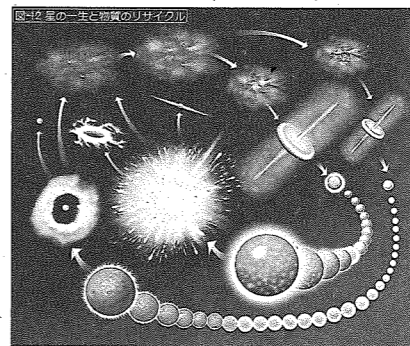
多くの挫折も経験した。人の3倍、4倍努力しても、自分ひとりの力だけでは届かない世界があることを知った。自分には研究者は無理かもと思う日もあった。それでも、最高の指導者と



佐野栄俊さん

仲間にも恵まれ、妻の献身的な支えと理解もあって、博士(理学)の学位を修めた。博士論文は、その年度の専攻内最優秀論文として、世界的に権威ある科学雑誌を出版しているSpringer社から表彰・受賞出版された。

それから8年間、任期付きのポスドクや助教として勤務し、世界中の研究室を巡った。その中で、多くの志を同じにする研究者と出会え、自分のできるこ



「星の一生の模式図」＝福井康雄著「大宇宙の誕生」(光文社)より

と、自分にしかできないことがどんどん増えていった。学生のころは苦手だった英会話は、いつの間にか自然と話せるようになっていた。

2022年に岐阜大学工学部に助教として着任し、24年からは准

教授として、総勢20人を超えるスタッフ・研究員・学生を率いて、日夜、次世代を担う学生の教育に全力で取り組みながら、誰もみたことのない宇宙の姿を探究し続けている。

子供たちの人生が、いつ何をきっかけに走り出すかは分かりません。それでも、彼ら彼女らの声に耳を傾け、意志を尊重し、理解し、全力で応援できるような大人が、身近に必要なのは確かです。

さの・ひでとし 工学部



電気電子・情報工学科准教授。専門は電波天文学・高エネルギー宇宙物理学。名古屋大学大学院修了。博士(理学)。1986年生まれ。